



特集: The 採血 ちょっとした疑問…どうしてますか?

日々のケアの中でちょっとした疑問をもったり、これってどういう根拠だった?って、わからなくなることはベテランNsでも一度や二度ではないはず。また、新人さんに技術指導をしていて知識があいまいだったことに、改めて気がついたり・・・。

そこで今回は、採血に関するちょっとした疑問を一緒に考えてみましょう。



採血のスピッツの違いって、実はよくわからないんだけど・・・いまさら誰にも聞けなくて・・・



この紙は何?
ゼリーは?

紙:遠心分離後、血餅と血清を分けやすくする
ゼリー:血清分離剤、血餅をしっかりとキャッチ



- 生化学 血清 血中濃度
- 血算
- 血沈
- 凝固
- 血液型 クロス マッチ
- 血糖 HA1c

どのスピッツを準備する?



森皆ねじ子著 SMS出版
場で必須の代表的な医療手技を、本音を交えてわかりやすく解説

☆注意☆
やや古い情報も含まれているようですので鵜呑みせず、教科書を確認しましょう(図書室にあります)

分注、混和での注意点は?

血沈と凝固(液体の凝固剤入り)は、スピッツの中に入っている抗凝固剤と血液の比率が決まっているので、多すぎも少なすぎもダメヨ。

よく、振って混ぜている人がいますが、血算、血沈、凝固は上下を逆にしながら混ぜる、「転倒混和」が原則です。

採血の指示が出たら、血算・生化はだいたいどんな時でも必要。診断、判断、治療の基本になります。

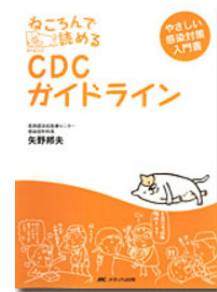
糖尿病や意識障害の時に必要。意識障害時は「低血糖発作」を除外する 必要があるので血糖値を調べます。

スピッツに入れる順番は??

シリンジ採血の時
→十分採れた時は、固まったら困るものから先に。

では、緊急事態で、2mlしかとれなかったらどうしますか?
→最も調べたいものは何か、医師に確認!!

エビデンスの理解と確認にこんな本もおすすめです



矢野邦夫著
ねころんで読める CDCガイドライン
メディカ出版

CNS, CNからの情報

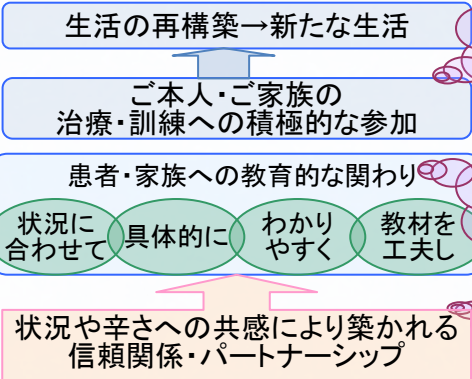


専門看護師（CNS）の役割（その6）：患者・家族への教育



具体的に考えてみると...

病気や障害を持ったり、
病気や障害を持つ人と生活していく時、
これまでの生活習慣を改めたり、
生活様式を変えていかなければいけません。
でも、実際の生活を変えていくことは
実はとっても難しいことですよ。



意思決定！
ゴールが見えれば、意欲も続くね！

ご本人自身が身体や心を理解するには、どうしたらいいかしら？

今一番辛いことは何だろう？

ですので、方法を指導するだけではなく「教育」という考え方をしていきます

小児看護専門看護師 市原真穂PHS (787) 6/4~6/30は不在です

Q ストローでジュースが飲めるのに、コップの時は強くトロミをつけ食べています。トロミの粉に興味が出て、いろいろなものにトロミの粉をふりかけ食べています。

A 正しいストロー飲みができていない可能性が！
ストロー飲みの前に、コップ飲みをしっかりと覚えることが大切です。

A トロミ（増粘剤）は誤った使い方では**窒息**の危険があります！

- *****水分摂取の練習*****
- 上唇を使ってすすり、一旦舌の上に水分をためてから飲み込む
- 順序
- ①スプーンから（はじめは飲むヨーグルト状のトロミで）
 - ②おちょこから（哺乳瓶の蓋など小さいもの）
 - ③コップから（カットコップが使いやすい）
 - ④ストローから



- トロミのつけすぎ
- のどに張り付く！！
- 粉を直接食べてしまう
- ・水分量に対する増粘剤の量を決め表示
- ・5~10分時間をおき固さをみる。
- ・手の届く所に不注意に置かない。



このプロセスを通り、正しいストロー飲みを獲得（口をとがらせ舌を出して飲んでいない。ストローを噛んだり奥までくわえこんでいない。） 摂食・嚥下障害看護CN 片山ゆかり（2B・母子棟）

創傷被覆材（デュオアクティブ）って何ですか？

【デュオアクティブの特徴】

湿潤環境が慢性及び急性創傷の治癒を促進
デュオアクティブドレッシングは、湿潤環境が創傷治癒を促進するという科学的根拠に基づいた**ハイドロコロイドドレッシング**です。創傷の初期段階に被覆すると、活性化した血小板やマクロファージの機能を保ち、細胞が放出するグロースファクターを効率的に環境内に蓄積、治癒力を高めます。

- 創の治癒を促進**
自己融解作用による壊死組織の除去。細菌汚染の防止。
血管新生、肉芽増殖、上皮再生の促進
- QOLの向上**
疼痛の軽減。交換時の二次損傷の防止。
- 高い安全性**
創部汚染の防止。創感染発生率の低減。院内感染の予防。
- 治癒コストを低減**
交換回数削減による看護の効率化。合併症発生率の低減に貢献。

【デュオアクティブCGFの適応】
皮下組織に至る創傷に使用

【デュオアクティブETの適応】
真皮に至る創傷に使用



皮膚・排泄ケアCN 室岡陽子(外来)